

120.●コスト構造

✦120.●コスト意識

IT導入に関わる際に理解すべきコスト構造

総務部門などの非エンジニアがIT導入に関わる際に理解すべきコスト構造を、できるだけ実務で役立つ形で詳しく整理します。

1. IT導入にかかるコストの全体像

IT導入のコストは、大きく分けると以下の4つのフェーズで発生します。

1. 初期導入コスト（イニシャルコスト）

- 機器・ソフトウェア購入費
- 導入作業費（設定、カスタマイズ）
- 初期教育・研修費

2. 運用コスト（ランニングコスト）

- 保守契約料（ハード・ソフト両方）
- ライセンス料・サブスクリプション料（例：Microsoft 365、クラウド）
- 通信費（ネット回線、VPN利用料）
- 運用担当者の人件費

3. 改善・拡張コスト

- システム改修（業務変更に伴う追加開発）
- 機器更新（PC買い替え、サーバー入れ替え）
- 利用者増加に伴うライセンス追加

4. リスク対応コスト

- セキュリティ対策費（ウイルス対策、ファイアウォール）

- データバックアップ・災害対策
- 障害対応費（緊急サポート、復旧費用）

2. 具体的なコスト項目の例

ハードウェア関連

- PC、プリンタ、サーバー、ネットワーク機器（ルータ・スイッチ・Wi-Fi）
- 保守契約（故障時の交換・修理）
- 電気代、設置場所の確保（サーバー用の空調など）

ソフトウェア関連

- 業務アプリ（会計、人事、勤怠管理など）
- OS（Windowsライセンスなど）
- セキュリティソフト
- クラウド利用料（Google Workspace、Microsoft 365、AWS、Azure）

人件費関連

- システム管理担当者の工数
- 外部ベンダーの設定・保守作業費
- 社員研修費（操作説明、マニュアル整備）

その他の見落としがちなコスト

- データ移行費用（旧システムからの引き継ぎ）
- 法規制対応（マイナンバー制度、個人情報保護法）
- サポート窓口（ヘルプデスク）運営費

3. コスト構造を理解するポイント（非エンジニア向け）

1. 「買って終わり」ではなく「使い続ける費用」が大きい

- 特にクラウドサービスは月額や年額のサブスク形式。

- ハード機器も3～5年ごとに更新が必要。

2. 利用者数に比例して増える費用がある

- アカウント単位で課金されるサービス（例：1人あたり月1,500円など）。

3. 見えにくい「運用負担」もコスト

- 総務や情報システム担当が「問い合わせ対応」に時間を取られることも。

4. リスク対策を削ると、トラブル時に高がつく

- バックアップやセキュリティを軽視すると、情報漏えいや業務停止で大損害になる。

4. コスト構造の簡単な図解（テキスト）

ITコスト構造

├─ 初期導入コスト（購入・設定・教育）

├─ 運用コスト（ライセンス・保守・人件費）

├─ 改善拡張コスト（更新・追加機能）

└─ リスク対応コスト（セキュリティ・バックアップ）

非エンジニアが業者と話すときは、

- 初期費用とランニング費用を分けて確認する
- 利用者数や契約期間で費用がどう変わるか確認する
- 更新や追加の見積もりも前もって聞いておく

これが「コスト管理の基本」となります。